
ふるさと地盤診断ウォーク（淀川コース）実施報告

1. 活動概要

実施日	: 11月12日(土) 8:30 - 14:00
参加者	: 一般17名 + 講師・広報企画委員7名
講師	: 京都大学教授 竹村恵二, 東大阪市 江原竜二
	: (一財)地域地盤環境研究所 北田奈緒子・越後智雄
広報企画委員	: 大阪府 田中 博, 建築技術研究所 山崎祐貴子
	: (一財)地域地盤環境研究所 井上直人

(敬称略)

2. 活動報告

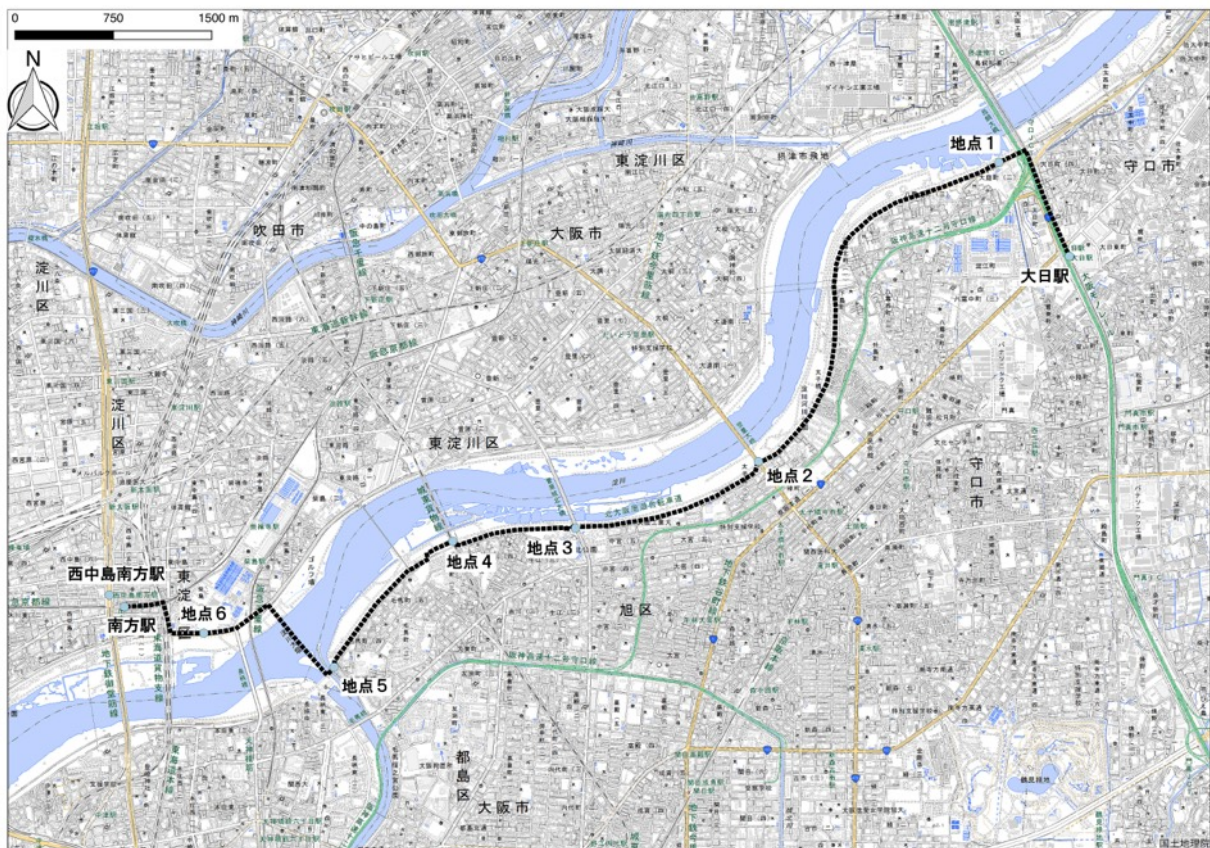


図 1: コース概要

今回のウォーキングコースは、淀川沿いを歩き、その変遷や治水、周辺の環境を学び、淀川にかけられた橋梁の話も伺い、毛馬排水機場・淀川大堰を見学するものでした(図1)。残念ながら当日体調不良で2名ご欠席でしたが、天候にも恵まれ、淀川の堤防沿いを気持ちよく歩くことが出来ました。大日駅を出発し、守口線のジャンクションを見上げながら、淀川堤防に到着しました。最初は鳥飼大橋を説明頂きました(図2)。また、堤防と周囲の高さも比較しました。国土地理院から公開されている詳細な地形データでも今回歩いた淀川堤防は周囲よりも高いことがうかがえました。現在の淀川は大規模な河川改修で元々の流路からはかなり変わっていますが、詳細な標高データや昔の地図でも昔の流路が読み取れるとの説明もありました(図3)。城北大橋では制水工の産物であるワンドもよく見えました(図4)。大阪東線の開通工事で今は通行できなくなった城東貨物線を見学した後(図5)、毛馬閘門に到着しました。毛馬閘門では丁度、観光船が通過している最中でした(図6)。早めの昼食の後、淀川河川事務所毛馬出張所の方に毛馬水門ご説明を頂き(図7)、現在の施設の説明(図8)、排水ポンプ設備を見学しました。このポンプは国内最高の排水能力を有しており、1秒で25mプールの水量を排水できるそうです。文化遺産としても保存されている昔の排水設備(図9)を見学した後、淀川大堰を背景に恒例の集合写真撮影を行い(図10)、大堰を見学させて頂きました。淀川を渡った後は、長柄橋の見学(図11)や空中写真による淀川の変遷、上町断層の調査成果の説明がありました。

今回、ほとんど標高の変化のないウォーキングでしたが、これまで人々に多くの恵みと災いをもたらしてきた淀川を見ながら、自然や人間活動による淀川の変遷、それに伴う治水と内容は盛りだくさんでした。また、普段何気なく通過している橋梁を下から見上げながらそれぞれに個性があることも印象的でした。

文責：GRI 井上



図 2: 鳥飼大橋の見学



図 3: 淀川の旧河道の説明



図 4: 菅原城北大橋やワンドの見学



図 5: 大阪東線の見学



図 6: 毛馬閘門の見学



図 7: 毛馬水門の説明



図 8: 毛馬排水機場の説明



図 9: 昔の排水設備の見学



図 10: 淀川大堰を背景に集合写真



図 11: 長柄橋の説明